

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年10月19日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 今は亡きあなたへの手紙

陸前高田の「漂流ポスト」

21日(日)



岩手県陸前高田市に、東日本大震災などの犠牲者に宛てた手紙が寄せられる「漂流ポスト」があります。地元でカフェを営む赤川勇治さんが4年前に設置し、これまでに500通以上の手紙が届きました。

赤川さんは1人で手紙を供養してきましたが、今年9月の法要に初めて、震災で大切な人を亡くした女性2人が参列しました。赤川さんと女性たちの思いに迫ります。

筆者は茨城・鹿島通信部の根本太一記者です。



## きらり Kirari 観音画家 木綿花 (ゆうか) さん

サラダぼうる面 22日(月)

大船観音の姿が見える神奈川県鎌倉市のアトリエで、独特の色彩とデザインの作品を生み出していく。

木綿花さんが観音画を描き始めたのは5年前。美しくて動きのある数々は宗教色をあまり感じさせず、女性を中心に幅広い世代からの支持を集めています。

学校の写生会で、花壇の花ではなくトイレ脇の雑草を描いたという彼女が切り開いてきた道をたどります。

## 街を荒廃させるマンション空き家

夕刊特集ワイド 22日(月)

じわじわと街をむしばむ影が迫っています。「空き家」問題です。来夏にも発表される最新の空き家数は、1000万戸の大台に乗るとみられています。

そして「これまでは地方にある一戸建てのトラブル」というイメージが強かった空き家は、これから都市部に林立するマンションでも深刻化しそうです。

どう対処すればいいのでしょうか。

## 食 フード ご飯を引き立てる3品

くらしナビ面 23日(火)

ふっくらつやつやの白い粒から、ふわっと湯気が立ち上る。そう、新米の季節がやってきました。宝石のように光輝くイクラの紅葉漬け、脂がのった秋のイワシのほろほろ、そして甘いしょうゆ味の牛肉の時雨煮。

食欲が進むお米のおいしい炊き方とご飯を引き立てる3品を、江戸懐石料理「近茶(きんさ)流」を継ぐ料理研究家、柳原尚之さんに教えてもらいました。

## ドキュメント 「あしたをささえる」

1、2面 23日（火）から

「働く」をテーマに人々が織りなすドラマを描く「ドキュメント」。第7部は、生活困窮世帯の子どもが通う埼玉県内の学習支援教室に密着します。

勉強以外にも、家庭の事情などさまざまな困難を抱えた子どもたちに、個別の学習指導や家庭訪問などを通して寄り添うスタッフや大学生ボランティア。時に戸惑い、時に迷いながらも共に成長する姿を描きます。

## 月刊東京五輪 「Good Coach 2020への歩み」

### 柔道日本女子代表 福見友子コーチ

スポーツ面 23日（火）

「月刊東京五輪」面で連載中の、指導者の理念や強化ポイントなどを紹介する「Good Coach 2020への歩み」。第2回は、柔道日本女子代表の福見友子コーチです。

選手時代には五輪金メダリストの谷亮子さんを2度破ったことで注目された元世界女王に、ロシアへの海外留学を通じて培った選手の自主性を尊重する指導方法などについて聞きました。

## ハマりました たい焼き4000個を食べたデザイナー

くらしナビ面 24日（水）

東京都内のデザイナー、イワイサトシさん（50）は子どもの頃から、あんこ好き。体重が100kgを超えたため減量に励み、痩せた頃に頭に浮かんだのがあんこだったそうです。

たい焼き店巡りを始めたのは7年前の冬。「東京たい焼き御三家」の一つで「目が合ったこと」がきっかけだとか。

たい焼きは「食べる民芸品」と言うイワイさんのうんちくをお楽しみください。

## 読み解きワード 超高額薬

医療・福祉面 24日（水）

今年のノーベル医学生理学賞に決まった本庶佑・京都大特別教授の発見を基に開発された新しいタイプのがん治療薬「オプジーボ」は発売当初、超高額な薬の値段（薬価）でも注目されました。

医療費を抑制する議論が進む中で、超高額薬の登場は懸念材料となっています。薬価はなぜ上がっているのでしょうか。そのなぞに迫ります。